

# 村木厚子さん

## 2月22日講演

オンラインで大阪新卒応援HW



村木さんの著書で私が皆さんに推薦したいのが「日本型組織の病を考える」(角川新書)です。村木さんが「国家の暴走」に巻き込まれたときの様子が臨場感溢れて描写されています。そして「年上の部下や同僚と仕事を進めるにあたり、私が決めたのは、『自然体で、身構えない』」ということや「村木流

### 村木さんの著書、ぜひ読んで

『静かな改革』(本書より)から、どんな状況にあっても自分らしくあることの大切さを本書から学べます。

公務員を目指されている方は本書+「公務員という仕事」(ちくまプリマー新書)もオススメです♪(イベント企画担当より)



村木厚子さんは1978年、労働省(現・厚生労働省)入省。女性や障害者政策などに携わる。2009年、郵便不正事件で逮捕されるも翌年、無罪が確定し復職する。13年、厚生労働事務次官に就任し15年退官。その後、津田塾大客員教授や伊藤忠商事社外取締役を務める。困難を抱える若い女性を支援する「若草プロジェクト」活動や累犯障害者を支援する「共生社会を創る愛の基金」活動にも携わる。

自分らしく働くために「就活生と、就活生の保護者に伝えたい」

大阪新卒応援ハローワーク(HW)は2月22日午後1時半から、元厚生労働省事務次官で津田塾大客員教授の村木厚子さんII写真IIによるオンライン講演会を開く。「就活生のための『自分らしく働く』を考えるフェア」の一環として実施されるものでテーマは「自分らしく働くために」就活生と、就活生の保護者に伝えたい。多くの就活生や若者は働くこととは何か、職場で良好な人間関係は築けるのかなど多くの悩みと不安を感じている。とりわけコロナ禍では友人との密な接触が制限され、一人で悩みを抱え込む若者が多い。そこで講演会では村木さんが「働く理由」や「これからの働き方」「職場で困難に直面した時の考え方」「今後の人生を豊かなものに

参加申し込みメールの送信先

[seminar-oskhw@mhlw.go.jp](mailto:seminar-oskhw@mhlw.go.jp)

するのための方策とは何か」を語り、若者の悩みや不安について一緒に考える。当日は二部構成で実施する。第一部は大久保正人所長が「いまどきの就活事情について」と題し、コロナ禍での学生の活動と企業の採用の現状について話す。第二部の村木さんの講演は午後2時から。参加は事前予約制。対象は大学、大学院、短大、専門学校生(学年問わず)及び卒業後3年以内の方。35歳未満で就職活動中の方。就職活動中やこれから取り組む学生や若者の保護者、学生の就活支援に携わっている方。上記のメールアドレス宛に空メールを送信すると、自動返信メールが届き、応募できる。問い合わせは大阪新卒応援HW。電話06(7709)9455へ。

### 自分らしく働くとは？ フェアと一緒に考えよう 2-3月

の企業と出合って欲しい。計50社が参加する。ぜひ多くの企業と出合っ

世界一・日本一合同企業説明会 明会は3月9日と10日、大阪・梅田の阪急グランドビル26階

大阪新卒応援HWは2月22日から「就活生のための『自分らしく働く』を考えるフェア」を所内で展開する。各種セミナーや世界一・日本一合同企業説明会(3月9・10日)があり、就活生を支援する。(3面に関連記事) 「自分らしく」発見セミナーと「自分らしく」表現セミナーは2月24日から。実践型面接対策は個別の対面▽個別のオンライン▽集団での対面の3講座がある。このほか、グループディスカッション(GD)、電話でのやり取りと入室の立ち居振る舞いを学ぶ印象アツプ講座、適職診断ワーク(VRT)と就職レディネス・チェック(RCC)、ストレスマネジメントセミナーがある。世界一・日本一合同企業説明会は3月9日と10日、大阪・梅田の阪急グランドビル26階で開く。写真はP Rチラシ。大阪が誇る世界初のや日本初、製品を持つ企業が1日25社、計50社が参加する。ぜひ多くの企業と出合っ

# 学ハロ大阪新聞

発行所 厚生労働省 大阪労働局 大阪新卒応援ハローワーク 〒530-0017 大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル18階 TEL 06-7709-9455 FAX 06-7709-9458 <https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-young/>

## 第58号

2023年1月31日



ホームページ 記事掲載のイベント情報はこちら



施設紹介(動画)



LINE公式アカウント



2 私の就活日記

4 阪南大・高橋ゼミ生がプレゼン

コロナ禍でイベントは？ 最新情報 HPで確認を 所内で開くイベントなどは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる場合があります。当所HPでご確認ください。

ジョブサポーター（JS）による個別支援や個別模擬面接、皆で就活を乗り越える就活クルーに説明付き企業面接会…。大阪新卒応援HWでは、様々な支援制度や面接会のイベントを通じ就活生を支援している。本稿では、そんな当所の制度を使い、意中の企業に内定した就活生に自らの活動を振り返ってもらった。コロナ禍の影響を受けながらJSとの二人三脚でどのような活動を続け内定を勝ち取ったのか。就活日記第44弾。

## 個別支援や面接会、就活クルーで内定つかむ

### 武庫川女子大生

「中小企業の経営者や個人事業主を一番近くでサポートし、堺のまちづくりと地域経済の発展に貢献したい」。経済団体職員に内定した武庫川女子大生は力強く抱負を語った。

就職活動は一昨年の夏から始めた。当初、地方公務員志望だった。介護や教育実習で現場を知り、志望動機に生かそうと考えたが、市役所で具体的にどのような施策に携わりたいかという明確な動機が見つからず、選考も不採用が続いた。「仕事への思いを面接官にどう伝えればよいか、それすら分からなくなっていた」。そんな時、大阪新卒応援HWを知る。



### 中小企業や個人事業主を支えたい

「たな気づきで自信を取り戻した。内定した経済団体も担当から民間経済団体への方向転換も不安はなかった。理由は今もクリーニング店を運営する祖母の存在である。祖母は簿記1級の保持者。その知識を生かし懸命に働く後ろ姿を幼いころから見てきた。仕事を手伝いながら個人事業主の厳しさを感じてきた。私もそんな経営者や中小企業の事を志望動機が固まった。研究である。これが落ち着けば日商簿記2級を目指す」。勉強を再開する。強みは一度始めたら、諦めずに継続努力できるところだ。コロナ禍での就活では、周囲の意見を傾聴しつつも、最後は自ら決断することを大切にしていた。

さっそく、面接セミナーや就活クルーに参加した。JSからは礼儀正しい所作や快活さを褒められた。とりわけJSによる個別支援と個別模擬面接が役に立った。

「担当のJSは私の考え方を否定せず、最後まで話を聞いてくれた。良いところを見つけてくれた。私にも多くの長所がある。そこを伸ばせば頑張れる」。新しい経営者や中小企業の事を

### 率直なアドバイスに多くの気づき

#### 桃山学院大・既卒



大学時代の4年間、飲食店で接客のアルバイトに力を注いだ。このため、就活のスタートは昨年2月からとなり出遅れた。何から手をつけたらよいか分からない中、SNSで大阪新卒応援HWを知り、相談窓口を訪ねた。これが個別支援を担当してくれたJSとの最初の出会である。

自分がどんな仕事をしたいのか、漠然とだが頭の中にあった。ただ、それを言葉で表現できず苦労した。そこでJSからヒアリングを受けながら言葉を紡ぎ出し、文章化していった。これが就活のスタートであった。

営業職を中心に20社ほど応募するも、ことごとく面接で失敗した。面接を受ける度に反省点も多く、落ち込む日々が続いた。なぜ上手くいかなかったのか。それは「絶対にこの会社に入社してやる」という執着心が欠けていたからである。

そこで私はJSからの勧めで「就活クルー」というセミナーに参加した。「就活クルー」は仲間と一緒に内定を目指す大阪新卒応援HWのセミナーである。孤独になりがちな就活を皆で協力しながら共に内定というゴールを目指す。同年代の就活生から率直なアドバイスをもらい、自分のいたらぬ点について多くの気づきがあった。自分自身がリフレッシュできる場でもあった。

例えば面接練習である。面接官の表情を何うなど余裕を持った話し方と、面接官が聞き取りやすいスピード感覚が練習回数を重ねるうちに身に付いた。抽象的な表現ではなく、自らの経験と心情を織り交ぜて具体的に話すことが聞き手にとってより分かりやすいことに気づき、改善に努めた。

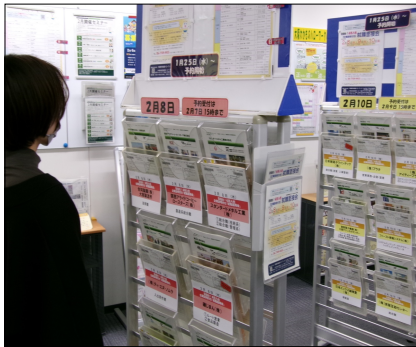
その上で昨年11月、大阪新卒応援HWであった説明付き面接会に参加し、JSから勧められた内装の営業職の求人挑戦した。本番の面接では就活クルーの練習で身につけたことを実践し結果、初めて内定を得た。アルバイトと並行した10カ月に渡る就活もこれで終わる。心から安堵する自分がいた。



# 4月入社、諦めないで。企業説明付き就職面接会が2月8・9・10日

目指せ！4月入社 企業説明付き就職面接会は2月8日から10日までの3日間、当所内で開く。写真はPRボードを見る就活生。製鉄業や食品製造、情報システム、卸売業など1日7社、計21社が集結する。職種は事務職や営業職、検査業務スタッフ、WEBエンジニア、システムエンジニアなど。

対象は大学院、大学、短大、専門学校を今年3月卒業予定の方。または既卒3年以内の方。参加には事前の予約が必要となる。相談窓口や電話でもOK。履歴書、ハローワークの紹介状を持参する。当日は2部入れ替え制で午後4分から面接が始まる。後12時半から受付開始。第一部は午後1時から企業の説明があり、1時40分から面接を始める。第二部は午後2時半から受付開始。午後3時から企業の説明があり、午後3時40分から面接が始まる。



## 人生を変える一歩、今こそ踏み出して

4月入社を目指し大阪新卒応援HWでは就職面接会や企業説明会が目白押しである。ただ「どんな仕事に向いているかわからない」と参加に二の足を踏む就活生も多い。われわれはそんな方にこそ、面接会への参加をお勧めしたい。

理由は、人は他者との交流を通して自分が何者であるかに気付くことができるからである。企業は完全無欠な人材を求めているわけではない。凸凹があってもいい。むしろ応募者のキラリと光る個性を見つけないのだ。面接では自己PRを語りながらも本当の自分の強みに気付いていない方もいる。しかし企業担当者はあなたの言葉から自社で活躍できる人材かどうか、必ず見抜いてくれる。選考が順調に進むということは、あなたの潜在的な強みが企業との出会いで掘り起こされたという証なのである。と同時に、求人票の字面では見えない企業の魅力あなたが汲み取る機会でもあるのだ。

企業や人との出会いは人生を変える。その一歩を今こそ、踏み出して欲しい。

「世の中にはどんな仕事があるのだろう」とゲーム感覚で知らない職業や新しい業界と出合うことも可能です。各診断テストや職業能力チェック、就職活動に必須で便利な情報が詰まっています。ぜひ、一度サイトを覗いてください。就職活動の悩みの解決につながるはずですよ。2次元バーコードはこちら↓。



## jobtag

## で仕事のイメージつかもう

「この仕事について具体的なイメージが湧かない」「実際にどんな仕事をするのだろう」。こんな疑問が浮かんだら、あなたはどのような調べていますか。そこで本稿では厚生労働省が提供する職業情報提供サイト(日本版O-NET)「jobtag」をご紹介します。「jobtag」には約500の職業について解説があり、様々な切り口で仕事への理解が深められます。フリーワードから「重視する」「または「避けたい」仕事イメージを選んだり、日常生活のイメージ地図から仕事を検索できたりします。例えば職業を一つ選択すると、具体的な業務内容と一日の仕事の流れが文章で詳しく説明されます。実際に働いている様子の動画もあり、知らない仕事にも理解が深まります。就労する方法、求められる知識とスキル、どんな人に向いているのか、総合的に分かる仕組みになっています。

## 自分らしく働くために必要なこと

最近の私の楽しみは知り合いの大学院生がInstagramにアップするストーリーズを見ることです。その大学院生は現在、コーヒー豆の研究のために中南米の国、グアテマラに滞在しており、日々起きたことや印象に残ったことなどをアップしています。内容は多彩で、コーヒー豆の栽培・収穫や現地で働いている方々の紹介、現地での暮らしぶり、余暇の時間を活用して参加した火山ツアーの様子など、ライブ感のあるさまざまな画像が週に何度か発信され、それを見ることで自分もグアテマラを旅している気分になります。

SNS、スマートフォン機能の進歩には本当に驚かされますし、自分が20歳の頃(37年前ですが…笑)にこのようなツールがあれば、その後の人生がどうなっていたのかと想像もしてしまいます。

就活についても、我々親世代と違い皆さんはインターネットやSNSで様々な企業情報を集めることができます。ですが、自分らしく働くため自分らしい企業を見つけるためにはより深く業界や職種に触れることが大切となります。キャリア形成には最初から目標を定め目指

していく「登山型」と様々な出会いや体験を元に目標を定める「川下り型」があると言われ、多くの方は「川下り型」でキャリア形成をされていると思います。ですから、新たな出会いの場を持たず、閉じた空間にいとキャリアを考えるに当たっては「自己理解」「職業理解」はなかなか進まない状況となります。せっかく、SNSやインターネットを介して新たな世界に目を向けたなら、さらにその世界に触れる機会を多く持つことが大切になってきます。

大阪新卒応援ハローワークでは、皆さんの「自己理解」や「企業理解」の解像度を上げる支援を2月から3月にかけて実施します。そのタイトルは「就活生のための『自分らしく働く』を考えるフェア」です！(1面に関連記事)。多くの方のご参加をお待ちしています。

最後に余談ですが、大学院生が帰国した際、グアテマラで体験したさまざまな事柄について聞かせてもらう約束をしており、その日が来るのが待ち遠しいです。(大阪新卒応援ハローワーク所長)

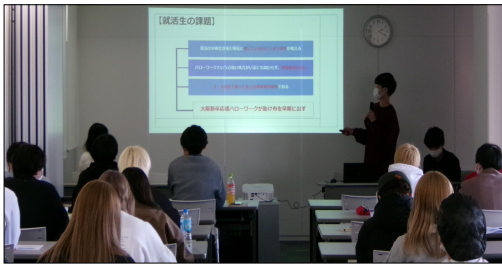
## 大阪新卒応援HWの活性化策は？

### 1・2回生向け業界研究イベント開催

### TikTokで動画配信、若者にPRし集客

「イベントは1・2回生に絞った業界研究会が効果的だ」「PRはTikTokによる動画配信で」「リラックススペースの設置で快適な空間づくりを」。高橋ゼミによるプレゼンテーションは利用者である学生目線の提案が注目を集めた。

「イベント開催」では1・2回生対象の業界研究会が提案された。発表者は「1・2回生は就活への意識はあるが、



具体的にどう動けばよいか分からず、業界や企業に関する知識が乏しい」と指摘。そこで「各業種を代表する企業の業界研究会を開けば学生の企業理解が深まる一方、主催するHWは多くの集客が図れる。学生のニーズに沿ったイベントの開催で双方の課題が一気に解決できる」とメリットを強調した＝写真は報告する学生。

これに対しHWの職員から「企業側の説明は1社当たり15分と短い。仕事内容や社風への理解は深まるのか」との質問があった。発表者は「時間が短いからこそ、集中力が高まり多くの企業の説明が聞ける。後日、会社見学もできる」と根拠を説明した。



一方、集客方法についてはTikTokで動画を配信し当所の認知度を上げる提案があった。発表者は「TikTokは流行の発信源であり、就活生に当所の存在を知ってもらうには最も効果的なツールだ」とし、女子学生が出演するテスト動画を紹介した。その上で「宣伝色が薄くユーザーと近距離でやり取りができる。半面、炎上の火種となる可能性もあり、プライバシーに配慮した投稿が必要となる」と説明した。

このほか「イベント開催」では就活を終えた4回生と下級生が座談会で交流する▼「環境改善」では壁紙の色を変えたり観葉植物を増やしたりする。所内にリラックススペースを設け、快適な利用環境をつくる▼「情報発信」ではLINE内のレイアウトを変更する。予約フォームを導入し、若年層が予約しやすく管理の手間や時間が減らせる工夫を—といった提案があった。最後に大久保正人所長が「貴重な提案をいただいた。皆さんの声を大切に、ぜひ参考にして導入できるものから実践したい」と講評した。

阪南大経済学部、高橋慎二教授ゼミの2回生24人＝写真②＝が1月17日、大阪新卒応援ハローワーク（HW）を訪れ、当所をどのように活性化すればよいかを提案するプレゼンテーションを実施した。業界研究会の開催やTikTok

でのPRなど学生目線のユニークな提案があった。高橋ゼミはこれまで府内のHWとフィールドワークを実施している。今回は学生や若者を専門とする当所の課題についてゼミ生が具体的な改善策を提案する目的で開

かれた。昨年2回、当所の職員やJSと話し合いを重ね、発表の準備を進めてきた。この日は「イベント開催」「環境改善」「情報発信」の3つをテーマにゼミ生がパワーポイントを使いそれぞれ報告。当所や大阪労働局職業安定課の職員も出席し、事業の実現性について質疑応答で議論を深めた。

## 阪南大・高橋ゼミ生がプレゼンで提案

## 甲南大・前田ゼミとゼミナーで交流

大阪新卒応援ハローワークは各大学のゼミ生向けに登録会、就職ガイダンスやゼミナーを随時、実施している。

これまで甲南大マネジメント創造学部前田正子教授ゼミ生向けには「就活について。」をテーマにした就職ガイダンスやワークなどを実施してきた。昨年11月には前田教授の講義で2回生から4回生（計84人参加）向けにゼミナーを実施した。ゼミナーでは、受講生が「働く」とは何かについてワークを交えながら考察し、仕事選びの勘所についても理解を深めた。

さらに就活についての助言（印象UPのためのワンポイント解説）や当所で利用できる就活サポートについての説明を行った。

受講生からは「自分らしく働くことの大切さを知った」「就活の進め方について様々な気付きがあった」との感想が寄せられ、真剣に聴講された様子が伝わってきた。今後、就活を進める上で困ったときや辛いことに直面したときはぜひ、当所の相談窓口を利用していただきたい。

**■就活応援メッセージ** コロナ禍でも遅しく大阪新卒応援HWで意中の企業に内定した若者が就活生を激励する応援メッセージを寄せている。建設業界の事務に内定した女子大生は「最初は特定の業界に強いこだわりを持っており、他の業界は興味がないという理由だけで知ろうともしていませんでした。こだわっていると就活が進まないと考え、就活クルーやDaily企業説明会に参加し新たな業界に出合い内定を貰いました」と行動力の大切さを訴える。インテリア業界の営業職に内定した男子学生は「自分を信じる力が大事。自分を信じ続けているといつか実を結ぶ日が来るはずです」。食品業界の販売職に内定した女子大生は「焦る時こそ、落ち着ける環境で紙に書き出したり誰かに相談したりして自分自身を見つめる時間を大切にしてください」と綴る。